

【紫あ波せトークング】

1月13日(火)、本校家庭科室にて、学校運営協議会会員、保護者、教員で総勢20名が集い、令和7年度 紫波西学園「紫あ波せ トークング」が行われました。今回は、この地区にふさわしい子育ての目標について話し合い、出た意見をもとに“子育て標語・スローガン”を作ることを目的として話し合いを進めました。

5人ずつ4つのグループに分かれ、最初はサイコロトークングで自己紹介をし、前半は「どんな子ども(人)に育てほしいか」、後半は「そんな子どもに育てるためにやるべきことは？」について付箋紙に書いたそれぞれの考えをもとに、話し合いをして、深めていきました。

自己紹介でどんなテーマがあたるのかはサイコロですから運任せ。それでも、とても和やかな雰囲気、どのグループからも笑い声が響き、とても楽しそうでした。話し合いに入ってから、西地区特有と言えるかもしれませんが、『地元愛』をもった子どもに育てほしい」という意見が多くのグループから出されました。そして、そのために、“子どもに身につけてほしいこと”、“親や大人、地域がやるべきこと”について、お互いに質問しあいながら、時には真剣なまなざしで話し合いに臨んでいました。その姿からは、参加者である大人自身も熱い『地元愛』を持っているということがひしひしと伝わってきました。

発表まで含めてあっという間の90分でしたが、参加者は満足した表情で学校を後にしました。今後は出た意見をもとに、標語・スローガンづくりに取り組んでいきます。次年度、この「紫あ波せトークング」が開催された際は、さらに多くの方が参加されることを願っています。大人同士で子どもの未来について話し合う機会はそう滅多にあるものではありません。「出てみようかな……」と少しでも思った方はぜひ前向きにご検討ください。きっと、いや、必ずや参加することで、子育てに関する多くのヒントを得ることができると思います。

感謝の言葉を述べる

畠山秀一郎会長と石川修司

西の杜小校長。聞く方も納

得の表情でした



石川校長と畠山秀一郎会長



石川校長の話を聞く参加者



グループ発表のようす

話し合いは盛り上がり、発表にも
力が入っていました

【キャリア教育推進連携シンポジウム】

1月19日(月)、文部科学省にて、標記シンポジウムが行われ、私が学校を代表して出席しました。

開会・主催者あいさつの後、はじめに代表団体への表彰式が行われ、その後、講演、事例発表、講評と続き、閉会の後、代表団体以外の受賞団体に賞状が授与されました。

シンポジウムでは、株式会社リクルート「キャリアガイダンス」編集長で東京学芸大学客員准教授の赤土豪一^{しやくどこういち}氏から、「半径5mから始まる世界—AI時代×「気になる・やってみたい」—」と題して、貴重なご講演をしていただきました。私が特に印象に残ったのは「AIならノイズとして扱い、普通は見逃すかもしれないものに、いかにして意味合いを持たせられるか。それが‘人間らしさ’であり、‘創造性’につながる」ということです。『AIが普及し、便利になってきているから』こそ、『人間の力が益々重要になっていく』と強く感じた次第です。

さて、本校は、総合的な学習の時間(「ふるさと学習」)におけるキャリア教育の取組、中でも米づくり学習を高く評価していただきました。長年お世話になった新里さんが昨年度で勇退されることになり、今年度から新しいスタイルのスマート農業に大きく方向転換したわけですが、学校運営協議会の多大なるご協力があった、スムーズに進められたことも受賞の大きな決め手の一つになりました。

紫波第三中学校に関わるすべての方々のお力添えがあつてこそいただいた“文部科学大臣表彰”です。紙面を借りて、感謝をお伝えいたします。ありがとうございました。学校としてはこれからも地域をはじめ、関わるすべての方々との連携を大事にして、生徒たちの健やかな成長のため、鋭意教育活動に取り組んで参りたいと存じます。今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

